

2025年度

[2025年4月1日～ 2026年3月31日]

事業報告

目 次

2025年度事業報告（総括）	1
Ⅰ. 科学技術振興関係事業	3
1. 科学技術振興に寄与する研究助成【助成（応募型）】（全国）	3
（1）募集・応募・選出状況	3
（2）交流会と贈呈式	3
（3）第41回(2025年度)マツダ研究助成一覧	4
（4）第41回(2025年度)マツダ研究助成奨励賞一覧	8
2. 科学技術振興に寄与する事業助成【助成（応募型）】（中国5県）	9
（1）募集・応募・選出状況	9
（2）第41回(2025年度)マツダ事業助成一覧	10
3. 科学技術振興に関する講座等の事業実施【講座、セミナー、育成】	12
i. 科学わくわくプロジェクト（広島県）	12
ii. 先進サイエンスサロン（広島県）	13
iii. 科学へのいざない（中国5県）	14
Ⅱ. 青少年健全育成関係事業	15
1. 青少年の健全育成に寄与する研究助成【助成（応募型）】（全国）	15
（1）募集・応募・選出	15
（2）オンライン交流会と贈呈式	15
（3）成果報告会	15
（4）第41回(2025年度)マツダ研究助成一覧	16
2. 青少年の健全育成に寄与する市民活動支援【助成（応募型）】	17
（広島県・山口県）	
（1）募集・応募・選出状況	17
（2）贈呈式	17
（3）フォローアップ	17
（4）第41回(2025年度)マツダ市民活動支援一覧	18
3. 青少年の健全育成に関する講座等の事業実施【講座、セミナー、育成】	19
i. 感動塾・みちくさ（広島県）	19
ii. 若者×ツナグバ（広島県、山口県）	20
iii. こどもミライクエスト（広島県）	21
4. 講演会【講座、セミナー、育成】（広島県）	22
5. 大学寄付講義【講座、セミナー、育成】（広島県）	23
Ⅲ. 管理事項の概要	24
1. 役員等に関する事項	24
（1）2026年3月31日現在の役員・評議員の名簿	24
（2）役員等の異動状況	24
2. 職員に関する事項	24
3. 理事会・評議員会等、主な活動事項	25
4. 所管行政庁への申請・届出・提出に関する事項	26
5. 登記に関する事項	26
6. 附属明細書	26

2025年度 事業報告（総括）

2025年度は、設立趣旨である「科学技術の振興」、「青少年の健全育成」の2本柱について、「つなぐ」を方針として、12の事業に取り組んで参りました。メイン事業である研究助成、市民活動支援に対し、従来から取り組んでいる、オンライン交流会、成果報告会、セミナーに加え、産学連携のキックオフを行い、つなぐ活動を通じた社会実装の推進に着手いたしました。また、2024年度から強化を始めた研究者増強にも継続して取り組み、2本柱それぞれの事業において、育成から社会実装まで一貫した体系で取り組める基盤ができたと考えております。

科学技術振興分野では、科学わくわくプロジェクトで「科学する心」を醸成し、科学体験事業で「科学する力」の支援を行い、科学への誘いでアカデミアやエンジニアを目指すきっかけを与え、サイエンスサロンで彼らの夢を叶える保護者の賛同を得て、研究助成で彼ら・彼女らの研究を支援し、助成後に地場企業とつなげることで、研究成果の社会実装と、地場企業強化による広島の人口転出減少の一翼を担えればと、5つの事業に取り組みました。

青少年健全育成分野では、育成のキーである「体験」を軸に、感動塾・みちくさで「科学への興味」と「仲間の大切さ」に気づききっかけを与え、大学寄付講義でリーダーに必要なスキルと知識を身に付け、若ツナで身に着けたスキルを使って実践経験を積んでいただくことで、市民活動や青少年の健全育成研究に進む人材を育て、助成活動で彼ら彼女らの活動や研究を支援するという役割のもと、6つの事業に取り組みました。

そして、講演会では、財団事業に関わっていないすべての皆様に対して、科学技術振興や青少年健全育成に向けての気付きや啓発の場を提供致しております。具体的には、著名な講師と高校生の質疑応答時間をしっかりとることで、質問した高校生たち、それを聞いていた若者たちの将来や夢に対する一助として頂くだけでなく、高校生たちの保護者や周りの大人たちが、彼ら・彼女らの夢を支援する強力なサポーターとなって頂くことを期待しております。

このような活動を通して、「マツダ財団は、研究や活動に対する支援に留まらず、人と人をつなぐことで、人材育成にも熱心に取り組まれている」という声が出てくるように取り組んで参ります。

I. 科学技術振興関係事業

1. 科学技術振興に寄与する研究助成【助成（応募型）】（全国）

機械、電子・情報、化学系材料、物理系材料の4分野を対象に30件3,000万円の助成を行いました。さらに、このうち特に優れた研究4件に「マツダ研究助成奨励賞」として副賞50万円、計200万円を追加助成しました。また、高校生と研究者を繋ぐ交流会を初めて開催しました。

2. 科学技術振興に寄与する事業助成【助成（応募型）】（中国5県）

研究者等による小中高の生徒を対象とした「科学体験」事業に25件200万円の助成を行いました。

3. 科学技術振興に関する講座等の事業実施【講座、セミナー、育成】

i. 科学わくわくプロジェクト（広島県）

教科書にとらわれない高度な科学体験により、小中高生の「科学するところ」を養うことを目指し「サイエンスレクチャー」「専門家による科学教室」、教員支援として「小学校理科ひろば」を実開催しました。

ii. 先進サイエンスサロン（広島県）

身近なテーマについて話し合うことを通して地域の方との交流を深めることを目的とした市民参加型の公開講座を開催しました。科学を目指す若者の保護者を強力なサポーターになっていただくことも目的としています。

iii. 科学へのいざない（中国5県）

広島女学院中学高等学校で「理工系女子の選択一好きなものを大切にー」をテーマに、東海工学部電気電子工学科 准教授 稲森真美子氏を講師にお迎えし開催しました。

II. 青少年健全育成関係事業

1. 青少年の健全育成に寄与する研究助成【助成（応募型）】（全国）

青少年健全育成に係る教育現場及び市民活動の活性化に役立つ汎用性の高い研究5件に計400万円の助成をしました。

2. 青少年の健全育成に寄与する市民活動支援【助成（応募型）】（広島県・山口県）

青少年の心豊かな成長に繋がる民間の非営利活動26件に計800万円の支援をしました。

3. 青少年の健全育成に関する講座等の事業実施【講座、セミナー、育成】

i. 感動塾・みちくさ（広島県）

子どもたちが自然に触れ、体験や実験などを通じて科学に対する興味を深め、自分たちで創意工夫することにより科学を学ぶ心を養うことを目的に、（公財）広島市文化財団との共催で2施設で2泊3日の体験宿泊学習を実施しました。

ii. 若者×ツナグバ（広島県・山口県）

若者が社会に希望を持ち自立していくことを目指し、地域社会に貢献する若者の非営利活動を支援しました。

iii. こどもミライクエスト（広島県）

若者が社会に希望を持ち自立していくことを目指し、地域社会に貢献する若者の非営利活動を支援しました。

4. 講演会【講座、セミナー、育成】（広島県）

第42回講演会として、本年度は講師にDeportare Partners 代表の為末大氏を迎え、広島国際会議場にて開催しました。

5. 大学寄付講義【講座、セミナー、育成】（広島県）

広島女学院大学に講師を派遣しディベート演習の講義支援を行いました。

各事業の概要を以下に記します。

I. 科学技術振興関係事業

1. 科学技術振興に寄与する研究助成【助成（応募型）】（全国）

天然の資源に恵まれない我が国においては、科学技術の育成・振興が重要な課題です。このために、主として科学技術に関する学術研究に対して助成し、振興をはかることにより、調和のとれた科学技術の向上をめざし、文化への貢献ならびに広く社会の発展に寄与することを目的としています。

（1）募集・応募・選出状況

①募集内容

（a）助成対象研究分野

現在ならびに将来にわたって解決が求められている科学技術に関する基礎研究および応用研究、特に、①機械、②電子・情報、③化学系材料、④物理系材料の4分野に係わる先進的・独創的な研究。

（b）助成金総額・件数 3,000万円・30件

（c）1件あたり助成金額 100万円

（d）助成期間 1年または2年

（e）募集方法・募集期間 公募、2025年4月10日～5月31日

＜マツダ財団研究助成奨励賞＞

マツダ研究助成対象の中から若手研究者を主たる対象とし、選考委員会が特に優れた研究であるとみなした研究に対して授与する。

- ・副賞（追加助成金） 50万円/件
- ・助成金総額・件数 200万円・4件

＜フォローアップ取り組み＞

- ・贈呈訪問を行う（全30件）
- ・分野別のオンライン交流会を開催する。
- ・社会実装に向けた産学連携を支援

②分野別応募・選出状況

合計247件の助成申請書を受理しました。分野別内訳は、以下のとおりです（選出数/応募数）。

- ・機械 9件/82件
- ・電子・情報 6件/52件
- ・化学系材料 5件/39件
- ・物理系材料 10件/74件

③選考方法

科学技術振興関係選考委員会（7月25日開催）において慎重に審査された結果、助成候補として30件（内、研究助成奨励賞候補4件）が選出され、第66回理事会において正式に承認決定しました。

（2）交流会と贈呈式

今年度は、10月～11月に各分野毎に新規採択者とオンライン交流会を行い、10月～12月にかけて所属機関を訪問し贈呈式を行いました。

(3) 第41回 (2025年度) マツダ研究助成一覧 ー 科学技術振興関係 ー

助成対象研究の概要は、以下の通りです		◆印付きは循環・省資源に係わる研究	S印付きは研究助成奨励賞受賞
研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)	
【化学系材料】			
キトサンナノファイバー複合による生分解性高分子材料の剛直性・延伸性・分解性の両立	◆ 以倉 峻平 奈良先端科学技術大学院大学 助教	100	
大量に廃棄されているカニ殻由来キトサンのバイオマス資源化が期待されるが、力学物性の低さが課題となっている。本研究では、キトサンと柔軟性を有するポリトリメチレンカーボネートを電解紡糸によりナノファイバー化し、高剛直性のポリ乳酸と複合化することで、生分解性高分子材料における剛直性・延伸性・分解性の両立を図る。複合化されたナノファイバーは、応力を分散して脆性破壊を抑制し、また材料内部に形成されるネットワーク構造が水および酵素の拡散経路として機能することで、分解性の向上を狙う。			
発光性有機 π ラジカルの新規分子設計指針の確立と平面構造を活かした機能開拓	伊藤 正人 東京都立大学 助教	100	
開殻系化学種である有機 π ラジカルは、不対電子に由来して一般的な閉殻系化合物では達成し難い物性を示すため、機能性材料への展開が期待される化合物群である。中でも近年では、ラジカルの発光性が格段の注目を集めている。しかし、安定性と高い発光効率を両立するための有機 π ラジカルの分子設計指針は依然として限られており、この分野の発展の妨げとなっている。そこで本研究では、発光性ラジカルの新たな分子設計指針を確立し、従来の分子デザインとは異なる本分子系ならではの機能性の獲得を目指す。			
メカノケミカル反応による多環芳香族化合物の官能基化と π 拡張□	◆ 伊藤 英人 名古屋大学 准教授	100	
本研究では、難溶性のため従来の溶液反応での官能基化・変換が困難であったナノグラフェンや多環芳香族化合物に対し、固体同士で直接機械的に反応を起こす「メカノケミカル反応」を駆使した新規反応を開発し、多環芳香族化合物に適した効率的な官能基化法を確立すると同時にこれまで合成できなかった様々な新奇ナノカーボン類の創出を目指す。			
縮環トリイミダゾール型二次元高分子の合成と有機電池への応用	◆ 佐藤 宏亮 東京科学大学 助教	100	
本研究は、貴な電位で可逆なレドックス活性を示す縮環トリイミダゾール構造を高密度で有する二次元高分子材料を合成し、その電気化学的な挙動の調査、およびメタルフリーな電池の活物質材料への応用、を目的とする研究である。層状構造に由来する対イオンの滑らかな脱挿入反応と、分子構造に由来する高い理論容量とが期待される二次元高分子材料を標的とし、新規材料の合成・形状や高次構造の分析・電池への応用の評価を通して、提案する材料が持つ有用性を明らかにする。			
水和殻構造に着目したイオン性ポリシロキサン機能探索	◆ 原 光生 香川大学 准教授	100	
本研究では、塩化物イオンを有するイオン性ポリシロキサンの吸湿性および自己集合挙動の理解を深めるため、水和殻構造に着目する。具体的には、アニオン種をハロゲン系イオンから出発し、ホフマイスター系列全体へと評価対象を拡張する。さらに、カチオン種についても同様に検討を行い、水和殻構造がポリシロキサンの吸湿性、自己集合性、さらには力学物性に与える影響を系統的に明らかにする。これにより、水和制御を鍵としたポリシロキサンの機能発現原理を解明し、新たな材料設計指針の構築を目指す。			
触媒反応原子シミュレーションを活用した活性金属担持固体触媒の計算先導開発	◆ 安村 駿作 東京大学 助教	100	
カーボンニュートラル社会実現に向けてメタン有効利用が注目されている。メタンの大気放出量抑制のため、メタン燃焼触媒が必須となるが、高価で地域偏在性が高いパラジウムが多量に用いられている。本研究では、ニューラルネットワークポテンシャル (NNP)を用いた高速、高精度原子シミュレーションを活用し、固体触媒開発の計算先導開発を行う。量子化学計算の大量に学習し、得られたNNPを用いて触媒反応をシミュレーションする。計算先導でスクリーニングし、貴金属使用量を低減した固体触媒の開発を行う。			
合理的配位子設計で拓く発光性d3遷移金属錯体の創製	小野 利和 九州大学 准教授	100	
遷移金属錯体のd-d遷移からの発光は従来、量子収率が著しく低く実用化が困難であった。本研究では、6配位八面体構造の結合角(90° および180°)を精密に制御し、励起状態での構造歪みを抑えて非放射失活を最小化する。結晶構造データベースや量子化学計算を駆使し、三座／六座配位子やキラリティ導入によって、耐久性、水溶性、近赤外発光を兼ね備えた新規Cr(III)錯体の創製に取り組む。d ³ 金属錯体全般への応用と、その常磁性も活用した次世代光・スピン融合材料の開発へとつなげる。			
分子ふるい能を有するナノリアクターの開発	◆ 河崎 陸 広島大学 准教授	100	
酵素反応は水系で反応が進行し、反応効率や選択性が高いため、サステナブルな反応として、産業的にも応用がなされてきている。しかし、酵素は安定性に乏しく、容易に失活してしまう。本研究では、申請者が独自に開発した分子ふるい能をもつポリマーベシクルを用いた酵素集積を経たナノリアクターとしての応用、さらには複数の酵素を用いたカスケード反応により二酸化炭素を原料とした物質変換へと応用する。このポリマーベシクルは膜中に水和可能なフェニルボロン酸構造を持つため、分子ふるい効果を発現する。			

研究題目および研究概要		研究代表者	助成金額 (万円)	
【化学系材料】				
分子光アンテナを用いた分子マシンの高効率駆動	◆	豊田 良順 東北大学 助教		100
ナノスケールのレベルで機械的仕事を行う人工分子マシンは今後のサステナブルな機能材料開発において重要な役割を担うと期待されます。しかしながら、その動力源となる光エネルギーの活用効率は未だに改善が求められる状況です。本研究では申請者らが独自に開発した光捕集アンテナと分子マシンを複合化することで、光吸収・エネルギー移動・分子マシン駆動というプロセスを経て、分子マシンの光活用効率を飛躍的に向上させることを目指します。この研究によって、分子マシンの実用的応用展開に繋がります。				
光刺激により分極制御可能な電子材料創出	◆	関根 良博 熊本大学 准教授	S	150
分子の設計自由度と構造柔軟性を活用し、格子内の電子・スピン・プロトンの揺動に起因する「空間的ゆらぎ」を、刺激応答によって自在に誘起・制御可能な分子材料を創出する。放射光X線・中性子回折などの先端計測、in-situ観察と時間分解分光、計算科学を活用し、発現機構を解明する。既存材料では実現困難なダイナミックな極性(外部因子で時空間的にゆらぎを制御して創出される極性)を示す環境低負荷な新材料設計指針の確立と学理構築を目指す。				
【機械】				
液液相分離ナノ液滴の蒸発ダイナミクスに関する分子論的解析と非接触実験評価法の検討	◆	玉舘 知也 金沢大学 助教		100
本研究は、液液相分離(LLPS)ナノ液滴の蒸発過程における成分選択的濃縮機構の解明を目的とする。分子動力学(MD)シミュレーションにより、10nm以下の領域での界面構造変化や成分蒸発の優先性を定量的に解析し、非平衡状態下での動的挙動を明らかにする。一方、数nm～100nmスケールのナノ液滴については、電気移動度計測を活用し、湿度や対流時間を制御した環境下でのサイズの変化を非接触で追跡する。これらの知見を統合することで、分離・濃縮操作への応用を見据えた新たな計測・評価技術基盤の構築を目指す。				
圧縮機内部流動場の音響リモートセンシング技術の開発	◆	草野 和也 九州大学 助教		100
遠方に設置された音圧センサによって取得される音響データから、音源である非定常流動場の情報を抽出できれば、流体機械に対する低コストかつ非侵襲的な情報収集手段として極めて有用である。しかし、流体運動の非線形性と高次元性のため、音響現象から流動現象への逆解析は極めて困難な課題であり、汎用的な解法は未だ確立されていない。本研究では、音響計測データを起点として、圧縮性流体の支配方程式を時間方向に遡って数値解析し、流体音に関与する流動現象を同定する数理的枠組みを構築する。				
産業用ロボットの準繰り返しビジュアルサーボの精密位置決め制御		村松 久圭 広島大学 准教授		100
産業機械へのAI技術導入が加速しており、特に、視覚フィードバック制御(ビジュアルサーボ)の導入が進んでいる。しかし、ビジュアルサーボの導入が、周期性を厳密に満たさない振幅と周波数変動する準周期外乱を誘発する問題がある。本研究は、この準周期外乱に着目し、その発生メカニズムの解明と、準周期外乱の推定・補償制御の確立を目的とする。適応的に周波数を推定し、準周期外乱を補償する適応準周期外乱オブザーバを構築することで、ビジュアルサーボを用いた産業機械の高精度な位置決めの実現を目指す。				
希薄溶液に特化したモデルフリー細管式粘度計の開発	◆	大家 広平 名古屋大学 助教	S	150
申請者が牽引役となって開発してきた流動逆解析(流体の時空間での振る舞いから流動物性を推定する手法)を応用し、希薄溶液に特化した新たな粘度計測手法を確立する。従来のトルク式レオメータでは全く歯が立たなかった、低粘度流体の計測を可能にし、レオロジー物性評価の対象を大幅に広げる。複雑流体の流れの理解とその先の効果的な予測・制御に繋がる、強靱で汎用性の高い流動物性計測ツールの完成を2年後に見据える。				
微粒化と反応領域を融合した濡れ性制御型宇宙推進機用触媒		飯塚 俊明 小山工業高等専門学校 准教授		100
月ミッションでは必要な物資を地球からすべて輸送することは難しく、月・月軌道で自由自在な活動のためには推進機・推進薬が必要になるが、地球から輸送する必要があり、持続的な活動の大きな壁となる。月で生成可能な推進機こそが月面での自在性の獲得に繋がる重要課題である。本研究では、推進剤が飛び跳ね・分裂しやすい表面(微粒化領域)および推進剤が濡れ広がり効率よく反応する表面(反応領域)を備える機構の実現のために取り組み、濡れ性制御による微粒化と反応領域を融合した化学推進機用触媒を実現する。				

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
【電子・情報】		
音声伝える感情を自然言語で記述する音声感情認識の研究	永瀬 亮太郎 立命館大学 特任助教	S 100
本研究では、音声伝える感情について自然言語で説明した「感情キャプション」を予測する音声感情認識手法の確立を目指す。音声感情認識は対話エージェント開発やコールセンター業務支援など、実用面での応用が進んでいるが、依然として「喜び」や「ポジティブ・ネガティブ」などの限られた感情の予測にとどまっている。そのため、「戸惑い混じりの僅かな怒り」などのより具体的な感情の予測は困難である。そこで本研究では、人間が直感的に理解し、正確に解釈できる感情キャプション予測の実現を目指す。		
高速移動体通信の高度化に向けたOTFS伝送のための高効率スパース信号処理設計	原 郁紀 東京理科大学 嘱託助教	100
近年、高速移動体との大容量通信を実現する次世代無線通信技術が求められている。その主要技術の一つとして、高速移動環境で生じる二重選択性フェージングに対して頑健なOTFS伝送が注目されている。本研究では、広帯域利用を前提としたOTFS伝送の高度化を目指し、遅延・ドップラー領域チャネルに内在するスパース性を活用した信号処理を研究開発する。外れ値検出やテンソル信号処理を活用した高効率なチャネル推定法を考案し、受信機における計算量削減と推定精度の両立を図る。		
屋内自律飛行ドローンに向けた高速・高精度な単眼深度推定手法の開発	孔 祥博 富山県立大学 講師	100
本研究は、屋内自律飛行小型ドローンへの応用を見据え、単眼カメラ画像から深度情報を推定する技術の高速化および高精度化を目的とする。近年、ドローンの自律飛行には、シーンの三次元構造を捉える深度情報が不可欠とされているが、一般的に用いられるRGB-DカメラやLiDARは、重量やコストの面で小型機体への搭載が難しいという課題がある。本研究では、軽量な単眼カメラから得られる画像のみを用いた深度推定アルゴリズムを高速かつ高精度に実現し、小型ドローンへ実装して、障害物回避や自律飛行への応用可能性を実証することを目指す。		
部分観測条件下におけるPhysics Informed Machine Learningの改良	小松 瑞果 神戸大学 助教	S 150
Physics Informed Machine Learningとは、物理法則や支配方程式等を取り入れることでシミュレーションの高度化を目指す機械学習をいう。この枠組みでは、必要なデータは観測可能と仮定されることが多い。しかし、実務上はこの仮定が成り立たないことが多く、その場合、学習の不安定化や予測性能の悪化が生じる。そこで本研究では、部分観測条件下において支配方程式を最大限に活用する新たな枠組みを構築する。これが実現された場合、部分的に観測されたデータと支配方程式の双方を有効活用した精緻なシミュレーションが可能となる。		
有機ガラス共振器を利用したランダムレーダーOLEDの創出	森本 勝大 富山大学 准教授	100
本研究は、発光源に有機ELを用い、レーザー共振器にも有機材料のランダム構造を採用した、全て有機物でできた新しいレーザー素子(OSLD)の創出を目指す。有機材料によるランダム共振器のOSLDへの応用は国内外に前例がなく、世界初の試みです。有機材料の柔軟性や軽さといった特長を活かし、従来困難だった曲面やウェアラブル機器への応用を可能にします。		
構音特性のモデル化とその構音障害者コミュニケーション支援への応用	陳 金輝 和歌山大学 准教授	100
本研究は、構音障害者が抱えるコミュニケーションの困難を、機械学習技術を用いて克服することを目指す。申請者は、これまで機械学習技術を基盤として発話理解、音声処理等の研究に取り組み、国際ジャーナルに数多くの研究成果を発表してきた。本研究では、これらの成果を統合発展させて、障害者の身体能力の制約を超えたコミュニケーション支援技術を構築する。具体的には、聞き取りにくい発話に対する2つの課題に取り組む: 1)少量学習データによる構音障害者発話意図の理解、2)障害者の話者性を維持した声質変換、これらの技術開発を通じて、構音障害者がより円滑にコミュニケーションできる社会の実現に貢献する。		
【物理系材料】		
高密度・高感度化に向けた有機半導体放射線センサの開発	◆ 宮田 恵理 足利大学 講師	100
放射線検出器は環境・医療・研究など様々な場面で広く使われている。放射線検出器の1つに半導体放射線検出器がある。一般的な無機材料を用いた半導体放射線検出器は、位置分解能やエネルギー分解能に優れ、応答が早いという長所があるが、結晶構造を持つため形状自由度が乏しく高コストという短所がある。この問題を解決するために、有機・無機材料のそれぞれの特性に着目し、従来から使用されている無機半導体放射線検出器にはない、低コストで大量生産が可能な有機半導体放射線検出器の開発を目指している。		

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
【物理系材料】		
光トラッピング技術による結晶サイズ・形状の自在制御	高橋 秀実 大阪大学 助教	100
集光レーザービームによる物質捕捉現象(光トラッピング)を溶液中に応用することで、様々な形の結晶を作製することができる。一方、これまでは溶液の光トラッピング過程を調べる手段がなかったため、結晶の形を制御するための指導原理は確立されていない。そこで本研究では、光トラッピングとラマン分光法を組み合わせた実験光学系を駆使することで、溶質の捕捉過程を定量評価する。これにより、結晶の形を制御するための真のレーザー条件を明らかにする。		
高エントロピーペロブスカイト酸窒化物ナノ粒子の化学合成と環境調和型熱電材料の創製	◆ 高橋 麻里 北陸先端科学技術大学院大学 講師	100
現在、産生されたエネルギーのうち約7割が既存の廃熱回収技術では回収できない低温廃熱として捨てられている。熱電デバイスは低温廃熱を電気エネルギーに変換可能なため、将来のエネルギーシステムの不可欠な一部として注目されているが、実用化に向けては解決すべき課題がある。本研究では、サステナブルな元素のみからなる高エントロピーペロブスカイト型酸窒化物ナノ粒子を化学合成し、階層的欠陥構造制御を施すことで、低温領域で高い熱電変換効率を持つ完全環境調和型高性能熱電材料の創製を目的とする。		
エステル基を有するチアゾロチアゾール骨格を基盤とした簡便合成かつ高効率な有機太陽電池材料の開発	◆ 山中 滉大 広島大学 特任助教	100
有機薄膜太陽電池(OPV)は、軽量、柔軟、塗布プロセス製造可能など、従来の太陽電池にない特長を有することから、次世代型太陽電池として注目されている。近年、有機半導体の開発研究によって、OPVのエネルギー変換効率は大きく向上した。一方、高効率材料は、多い場合には15～20ステップもの多段階反応により合成されるため、著しく高価なものとなっている。OPVの実用化に向けた重大なボトルネックとなっている。そこで本研究では、合成ステップ数を大幅に削減するため、中心骨格を共通とするp型およびn型有機半導体を設計・合成することにより、高効率かつ低コストなOPVの実現を目指す。		
バルク光起電力効果を利用した新規光電変換材料の開発	◆ 寺澤 有果菜 熊本大学 助教	S 150
2050年までのカーボンニュートラル達成を見据えた超スマート社会構築に向けて、太陽光発電は次世代エネルギー社会の有望な主力電源と位置付けられている。なかでも、バルク光起電力効果による光電変換が注目されているが、無機材料ではバルク光起電力効果の発現に必須な結晶構造の空間反転対称性を破ることが困難であり、材料開発に限界がある。本研究では、有機分子の導入により対称性を制御し、従来の無機材料開発の延長では実現できない新規光電変換材料の創出を目指す。		
超高品質なジョセフソン接合の実現に資する超伝導電極間へのグラフェンのボトムアップ合成手法開発	小倉 宏斗 東北大学 助教	100
本研究では、炭素の原子層材料であるグラフェンの両端に超伝導電極を接合させたグラフェンジョセフソン接合において、その超高品質化に向けたグラフェンの直接合成手法の開発を目的とする。具体的には、超伝導電極間のチャンネル部分に高品質なグラフェンを合成することで、安定してジョセフソン効果が観測できるような設計を行う。特に、ジョセフソン効果を歩留まり良く発現できるようにするため、低シート抵抗且つ低接触抵抗となるような合成条件の探索とデバイス設計を行っていく。		
高輝度発光する有機単結晶の創出と光学素子への展開	◆ 松尾 匠 高知工科大学 助教	100
偏光生成技術はディスプレイ等において光の放出を自在にon/off切り替える上で必要である。しかし現状の偏光生成には発光体と偏光子の二つが必要であり、以下三つの欠点を抱える。①素子が大型になりやすい。②偏光子によって光エネルギーがロスされ、輝度が小さくなる。③偏光子作製に高コストかつ高度な技術・ノウハウを要する。これらを解決するため本申請では高輝度な偏光を自発光する有機単結晶を創出する。具体的には二次元有機単結晶において分子配向を制御することによって面発光させ、高輝度化の機構を実現する。		
水素置換型鉄系超伝導体における自然/人工ナノ構造の解明	半沢 幸太 東京科学大学 助教	100
近年のエネルギー問題から、核融合発電や無損失送電などの次世代超伝導体応用材料が求められている。これまで申請者は、独自のH置換プロセスを開発することで、鉄系超伝導体SmFeAs(O,H)のエピタキシャル薄膜成長に成功し、高い超伝導転移温度だけでなく、応用上重要な非常に高い超伝導臨界磁場と臨界電流を示すことを明らかにしてきた。本研究では、自然/人工的に様々なナノ欠陥ピンニングセンターを膜中に導入することで、臨界電流のさらなる向上を狙い、SmFeAs(O,H)の次世代超伝導応用の可能性を切り開く。		
天然素材由来高性能炭素量子ドットの作製方法の確立	◆ 鈴木 凌 横浜市立大学 助教	100
炭素量子ドット(CQDs)は、環境負荷が小さく安価に作製可能な蛍光材料として注目されている。しかし、発光起源が未解明であり、作製条件も経験的かつ非効率的であるため、再現性や制御性に乏しく、実用化には課題が多い。また、発光に寄与する原料分子が未知であり、材料設計の指針が求められる。本研究では、CQDsの発光起源の解明と原料選定に基づく作製条件の最適化を行い、高効率なCQDsの開発と応用展開を目指す。		
合計	30件	3,200

(4) 第41回(2025年度)マツダ研究助成奨励賞一覧 ー科学技術振興関係ー

マツダ研究助成奨励賞は、助成対象の中から、若手研究者を主たる対象とし、選考委員会が特に優れた研究であるとみなした各分野1件の研究に対して授与されるもので、副賞として研究助成金50万円が追加助成されます。□

(注) 研究代表者役職は応募時

分野	研究題目および選考理由	研究代表者
機械	希薄溶液に特化したモデルフリー細管式粘度計の開発	大家 広平 名古屋大学 助教
選考理由	本研究は、時間毎の流体情報から流動物性を推定する逆解析手法を応用し、従来のレオロジー物性評価では不可能な、界面活性剤や高分子を添加した「低粘度流体」の計測を可能にするものである。これよりレオロジー物性評価の対象を大幅に拡大でき、流体機械のみならず、生体内流動、食品、化粧品、塗料など様々な分野での希薄溶液の流動現象解明とその応用による機能向上が期待できる。	
電子・情報	部分観測条件下におけるPhysics Informed Machine Learningの改良	小松 瑞果 神戸大学 助教
選考理由	本研究は、Physics Informed Machine Learningの実務上の課題である部分観測下での学習不安定性に対し、支配方程式を最大限活用する新たな枠組みを提案しており、高い独創性と実用性が評価される。提案手法が確立されれば、不完全なデータ環境でも高精度なシミュレーションが可能となり、気象、構造物診断、医療など多分野への波及効果が期待される。現実的な課題に根ざした研究であり、奨励賞と評価する。	
化学系材料	光刺激により分極制御可能な電子材料創出	関根 良博 熊本大学 准教授
選考理由	分子の設計自由度と構造柔軟性を活用し、格子内の電子・スピン・プロトンの揺動による「空間的ゆらぎ」を自在に制御可能な分子材料の創出を目指している。放射光X線・中性子回折などの先端計測技術と計算科学を駆使し、環境低負荷な新材料の設計指針を確立する点で非常に先進的かつ独創的である。既存材料では実現困難なダイナミックな極性を示す新材料の創出は、材料科学の新たなフロンティアを切り開く可能性を秘めており、その革新性と実現可能性において高く評価される。	
物理系材料	バルク光起電力効果を利用した新規光電変換材料の開発発	寺澤 有果菜 熊本大学 助教
選考理由	カーボンニュートラル時代に向けて、バルク光起電力効果による光電変換が注目されている。これまで、無機材料においてバルク光起電力効果の発現に必須な結晶構造の空間反転対称性を破ることに限界があった。本申請は、有機分子の導入により対称性を制御する独自の手法により、従来の無機材料開発の延長では実現できない新規光電変換材料の創出を目指す挑戦的な研究として評価される。	

2. 事業助成科学技術振興に寄与する事業助成【助成（応募型）】（中国5県）

学会・研究機関等に属する研究者及び非営利団体が中国地方で開催する小中高の生徒を対象とした科学体験に関する事業や研究会等に助成することで、科学技術振興を推進します。中でも、高校生の自主活動として、科学に関する探求や科学クラブの取り組みを優先しています。

（1）募集・応募・選出状況

①募集内容

（a）助成対象

中国地方の大学（含、附属研究機関）、高等専門学校、高等学校、非営利団体に所属し、申請事業の開催責任者または出版物の主たる著者によって実施される以下の活動。

- ・青少年を対象とした「科学体験」事業の開催
- ・高等学校における科学技術に関わる探究活動
- ・高等学校における科学クラブ等の活動
- ・その他、科学技術に関し財団が有意義と認めるもの

（b）助成金総額・件数 200万円・25件程度

（c）1件当たり助成金額 4～10万円

（d）助成期間 2025年6月1日～2026年5月31日

（e）募集方法・募集期間 公募、2025年4月1日～5月6日

② 応募状況

本年度は、42件の助成申請書を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。

（a）地域別	・鳥取県 2件	・広島県 16件
	・島根県 7件	・山口県 12件
	・岡山県 5件	
（b）分野別	（1）青少年を対象とした「科学体験」事業の開催	16件
	（2）高等学校における科学技術に関わる探究活動	13件
	（3）高等学校における科学クラブ等の活動	12件
	（4）その他	1件

③ 助成対象者の選出

マツダ事業助成－科学技術振興関係－選考委員会（5月23日）において慎重に審査され25件が選出されました。

(2) 第41回(2025年度)マツダ事業助成一覧 ー科学技術振興関係ー

事業名	開催地	事業責任者 (役職は応募時)	実施期間	助成金額 (万円)
STEAM教育推進プロジェクト/Python画像生成AIを活用した探究学習について	広島市	楠香谷隆規 広島市立美鈴が丘高等学校	2025/06/01 ～ 2026/05/31	10
野球部に負けるな！テニス部が研究活動の最前線へ	広島市	西武宏 広島県立祇園北高等学校	2025/06/01 ～ 2026/05/31	5
体験型ICT謎解き＋電子工作 ー小中学生に人気の謎解きを通して工学に親しむー	周南市	河村麻子 徳山工業高等専門学校	2025/06/01 ～ 2026/05/31	7
小中学生による米子鬼太郎空港へのイルミネーション展示	米子市	松本充 国立米子工業高等専門学校	2025/06/01 ～ 2026/05/31	10
3Dプリンタを用いた相撲ロボットの作成及び高校生による体験教室の実施	田布施町	轡田啓佑 山口県立田布施農工高等学校	2025/06/01 ～ 2026/05/31	10
コオロギのフンに含まれる有用細菌の研究	東広島市	大野佑二郎 広島県立西条農業高等学校	2025/06/01 ～ 2026/05/31	10
ロボット製作で学ぶレスキュー活動と防災・減災	松江市	本間寛己 松江工業高等専門学校	2025/06/01 ～ 2026/05/31	10
ロボット製作／全国高等学校ロボット競技大会への挑戦	周南市	田中和良 山口県立南陽工業高等学校	2025/06/01 ～ 2026/05/31	10
ノーコードで始めるIoTものづくりチャレンジ	松江市	外谷昭洋 松江工業高等専門学校	2025/06/01 ～ 2026/05/31	10
フルカラーLEDを使ったマイコンプログラミング～光を操るマジシャンになろう～	周南市	柳澤秀明 徳山工業高等専門学校	2025/06/01 ～ 2026/05/31	10
地震と防災がテーマの学習プログラム開発と出前科学教室の実施	下関市、 山口市、 萩市	岡田秀希 山口大学	2025/06/01 ～ 2026/05/31	5
まるごと徳山高専2025 ～子供たちの“心”を育むモノづくりワークショップ～	周南市	宮崎亮一 徳山工業高等専門学校	2025/06/01 ～ 2026/05/31	9

事業名	開催地	事業責任者 (役職は応募時)	実施期間	助成金額 (万円)
第18回コンクリート甲子園への取組	広島市	小林安久 広島市立広島工業高等学校	2025/06/01 ～ 2026/05/31	9
小・中学生向け科学イベント「クリスマスサイエンスショー」と公開講座「エジソン・スクール」	呉市	重松尚久 呉工業高等専門学校	2025/06/01 ～ 2026/05/31	9
SDGs人生ゲームを用いた科学部生徒による科学リテラシーの地域に向けた普及活動	倉敷市	藤田学 岡山県立倉敷工業高等学校	2025/06/01 ～ 2026/05/31	5
超伝導体の作成を通じた科学的好奇心とアウトリーチ視点の育成	広島市	宮原寛和 広島県立広島国泰寺高等学校	2025/06/01 ～ 2026/05/31	5
「バタフライブッシュ」を科学する～3つの花特性に着目したチョウの訪花行動要因の探索～	広島市	濱田芙美 広島県立広島国泰寺高等学校	2025/06/01 ～ 2026/05/31	10
ペーパーロケットの開発と大会への参加、地域へ向けた普及活動の実践	倉敷市	藤田学 岡山県立倉敷工業高等学校	2025/06/01 ～ 2026/05/31	5
山口高校化学・生物部 生徒研究活動	山口市	入江壽朗 山口県立山口高等学校 化学・生物部	2025/06/01 ～ 2026/05/31	7
革新的なリン貯蔵技術の開発 –島根の下水処理技術のさらなる発展を目指す–	松江市	原誠実 島根県立松江東高等学校	2025/06/01 ～ 2026/05/31	10
こどもたちに最先端の科学のおもしろさや不思議さを伝える活動	防府市	鬼村謙二郎 山口大学	2025/06/01 ～ 2026/05/31	9
再生可能エネルギーである「ばらのバイオコークス」を利用した「ミニSL機関車の走行実験」と「製鉄実証実験」の実施	福山市	岡崎暢寿 近畿大学附属広島高等学校福山校	2025/06/01 ～ 2026/05/31	7
AI技術を活用したモノクロ写真のカラー化	広島市	花岡健吾 崇徳高等学校／新聞部	2025/06/01 ～ 2026/05/31	10
ワークショップだよ！全員集合！（デジタル工房を活用した小中学生向けワークショップ開催）	広島市	平原豪人 広島工業大学高等学校K-STEAM類型	2025/06/01 ～ 2026/05/31	4
モデリングから3Dプリンタによる印刷までの一連の工程を通したものづくり体験の展開	米子市	川戸聡也 米子工業高等専門学校	2025/06/01 ～ 2026/05/31	4
合 計		25件		200万円

3. 科学技術振興に関する講座等の事業実施【講座、セミナー、育成】

i. 科学わくわくプロジェクト（広島県）

(1) 内容

「科学わくわくプロジェクト」は、マツダ財団と広島大学等が連携して青少年の健全育成と科学技術の振興を目指して実施する事業です。次の時代を担う小学生・中学生・高校生に、考えること、学ぶことにわくわくする体験、正解のない問題に取組みブラックボックスをこじ開けてみる体験といった機会を継続的に提供することにより、科学する心を育てることを目的としています。

「科学わくわくプロジェクト」は、次の特徴を有しています。

- ・ 現場の教員の議論により生まれたプロジェクトである。
- ・ 財団と大学の連携事業である。
- ・ 多様な事業で構成される複合的な事業である。
- ・ 教育効果の評価を通じて学校教育への波及効果も期待される。

(2) 連携先

科学わくわくプロジェクト実行委員会

委員長：広島大学 林 武広 名誉教授（元比治山大学副学長・教授）

(3) 主要事業

① 小学校理科ひろば

小中学校理科授業充実のための教員支援として、小学校高学年理科出前示範授業及び現職教員研修。

26校で4年生、5年生及び6年生理科の特別授業を、のべ49回対面で実施。

テーマは、4年生「夏の月と星」「冬の月と星」、5年生「流水の働きと土石流、津波」「天気の変化」「自然災害と防災」、6年生「月と太陽」「土地のつくりと地層」など多彩な授業を実施。

② サイエンスレクチャー

中高生を対象としたハイレベルな内容の出張・出前型講座；要請により可能な範囲で社会人等も対象とする。

今年度は3つの中学校・高等学校にて対面方式で実施。

テーマは「課題研究の進め方」「メディアリテラシー」「ブラックホール、ガンマ線バースト宇宙研究最前線」の3つ。

③ 専門家による科学教室（旧ジュニア科学塾）

理科好きの中高生（公募）が高度な科学内容を学ぶことを通して先端的科学への関心を高め、学ぶ意欲を育む集中講義。

科学関連施設の見学などの「体験講座」1件、中学校の授業に出向いて「教員と連携した理科授業」4件・個人向け指導「科学の探究」1件

(4) マツダ財団負担金

100万円

ii. 先進サイエンスサロン（広島県）

(1) 内容

「先進サイエンスサロン」は、マツダ財団と広島大学大学院先進理工系科学研究科が連携して2023年度から実施している事業で、身近なテーマについて話し合うことを通して地域の方との交流を深めることを目的とした市民参加型の公開講座です。また、科学を目指す若者の保護者を強力なサポーターになっていただくことも目的としています。

2025年度は、第4回と第5回を開催しました。

第4回

- ① 開催日：2025年7月26日
- ② 場所：東広島イノベーションラボ ミライノ+
- ③ テーマ：未来のモビリティ社会を考える
- ④ パネラー
広島大学先進理工系科学研究科 力石 真 教授
東広島市都市交通部交通政策課 帯刀 武史 氏
広島電鉄（株）交通政策課長 進矢 光明 氏
- ⑤ 聴講者数：20名

第5回

- ① 開催日：2025年11月15日
- ② 場所：きてみんさいラボ
- ③ テーマ：実験と計算で拓く化学の最前線 ～生命の起源からものづくりまで～
- ④ 講師
広島大学先進理工系科学研究科 石元 孝佳 教授
京都大学名誉教授 馬場 正昭 先生
- ⑤ 聴講者数：15名

iii. 科学へのいざない（中国5県）

(1) 内容

「科学へのいざない」は、2024年度の検証を経て、2025年度から開始した事業です。将来進む道に悩んでいる世代に、距離感の近い若手研究者による講義やワークショップを通じて、アカデミアやエンジニアの道に興味を持って頂こうというものです。

対象は、中国地方5県の過去に科学事業助成に応募した高校や中学とし、講師として、過去に科学技術研究助成に採択された研究者の中から高校や中学のニーズに合った方を招聘することとしています。

2025年度は、広島女学院中学高等学校の高校2年生40名を対象とし、女性研究者である東海大学稲森准教授に講義頂きました。理系に興味を持ったきっかけや、学生時代の経験、現在の研究内容について講義頂き、科学は身近なものであること、高校までの学習が大学やその先の将来に必ず活かされる、自分のしたいこと、好きなこと、得意なことを大切に、高校時代はこれらを見つける時期であることなど、のメッセージを伝えて頂きました。

開催後のアンケートから、漠然とした将来への不安を期待に変えるきっかけになったことが窺えました。

- ① 開催日： 2026年1月27日(火)
- ② 開催場所： 広島女学院中学高等学校
- ③ 対象： 理系クラスの高校2年生 40名
- ④ 演題： 理工系女子の選択 ―好きなものを大切に―
- ⑤ 講師： 東海工学部電気電子工学科 准教授 稲森真美子（第40回マツダ研究助成採択者）

Ⅱ. 青少年健全育成関係事業

1. 青少年健全育成に寄与する研究助成【助成（応募型）】（全国）

本財団の設立趣旨である「青少年の健全育成」に係る教育現場及び市民活動の活性化に役立つ汎用性の高い研究（基礎的研究を含む）を対象とする。

（1）募集・応募・選出

①募集内容

（a）助成対象研究分野

- ①ボランティア育成 ②若者の居場所づくり ③地域連帯・コミュニティづくり ④自然とのふれあい
⑤国際交流・協力 ⑥科学体験・ものづくり

（b）助成金総額・件数 400万円・5件程度

（c）1件あたり助成金額 上限100万円

（d）助成期間 1年または2年

（e）募集方法・募集期間 公募、2025年4月14日～6月15日

②分野別応募状況

③ ボランティア育成	5件	②若者の居場所づくり	10件
③地域連帯・コミュニティづくり	10件	④自然とのふれあい	1件
⑤国際交流・協力	4件	⑥科学体験・ものづくり	6件

③選出方法

青少年健全育成関係選考委員会（8月）において、慎重に審査された結果、応募36件の内助成候補として5件が選出され、第66回理事会において正式に承認決定しました。

（2）オンライン交流会と贈呈式

今年度は、10月に新規採択者とオンライン交流会を行い、11月に所属機関を訪問し、贈呈式を行いました。

（3）成果報告会（市民活動支援と合同開催）

2026年2月、対面での成果報告会を実施しました。研究と実践の融合を図るため、2025年度に終了する市民活動26団体との合同開催とし、加えて市民活動に興味をお持ちの一般の方にもご参加いただきました。選考委員の明石先生の基調講演（テーマ：「食育」と「健康教育」をどう進めるか）を皮切りに、ポスターセッション（研究者・市民団体）、パネルディスカッション（テーマ：自分らしくいられる居場所について）を実施しました。

（４）第41回(2025年度) マツダ研究助成一覧 ―青少年健全育成関係―

助成対象研究の概要は、以下のとおりです。

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額(万円)
大学生が主体的に活躍する地域づくりのエコシステム形成に関する研究	天野 浩史 静岡大学特任准教授	65
本研究は、地域社会から地域づくりへの参加を期待される大学生が、地域社会と良好な関係を創出し、心豊かに持ち味が発揮される地域づくりを目指して、地域づくりのエコシステム形成と大学生の成長の関係を明らかにすることを目的とする。具体的には、エコシステム論の理論的整理、先進事例調査、静岡市駿河区大谷地区におけるアクションリサーチに取り組み、大学生と地域社会がどのように相互作用しながら地域づくりのエコシステムを形成するのかを明らかにする。		
聴覚障害学生支援のための大学ノートテイカー学生共同養成・研修プログラム作成と研修実践による効果検証	下中村 武 岡山大学助教	85
聴覚障害学生が授業で学ぶ際、音声情報を文字情報として伝える「ノートテイク」支援が有効であるとされる。ノートテイクを行う「ノートテイカー」養成には、各大学で研修講師や予算の確保を要するが、いずれの確保も困難な状況にある。本研究では、①いかなる環境下においても、ノートテイカー学生養成が可能となるオンデマンド動画を作成し、②オンデマンド動画を活用したノートテイカー学生養成の効果検証を行う。最終的に、一定水準の技術を習得可能なノートテイカー学生養成の方法を提示することを目的とする。		
超人口減少社会における子どもの意識・行動とキャリア形成をめぐる実証研究：次世代のウェルビーイングを実現する地域教育計画に向けて	長尾 悠里 弘前大学助教	84
本研究は、Society5.0を見すえ、超人口減少社会において、次世代のウェルビーイングを実現する地域社会と学校教育はいかにして可能かを問うものである。社会調査の方法により、青森県X町の子どもの意識と行動・キャリア形成の把握を軸とし、教育関係者・地域住民の教育制度等に対する意識についても実証的に解明する。X町の教育関係者と協働し、地域に根差した教育行政・教育計画の策定に資するエビデンスを提示するとともに、長期的な視点から次世代の学校・地域・社会を構想する上での示唆を引き出す。		
急性期医療で親を亡くした子どもへの支援モデルの構築―地域とつながるグリーフサポートプログラムの展開―	水上 喜美子 金沢大学附属病院特任助教	83
救急・集中治療の現場では、親の急変や死別に直面した子どもへの支援が十分に行き届いていない。本研究では、親を亡くした子どもとその養育者を対象に、安心して悲しみを自由に表現できる「グリーフサポートプログラム」を地域で実施し、その有効性と課題、そして救急・集中治療領域における子どもを含めた家族支援のあり方について明らかにする。子どもの心の成長を支えとともに、“かなしみ”を分かち合える文化的・社会的な居場所づくりをめざす。		
「いわての復興教育」における地域連携をとおした愛郷心の育成に関する研究	小野寺 香 奈良女子大学准教授	83
本研究の目的は、「いわての復興教育」に焦点をあて、地域連携をとおした復興教育における愛郷心育成のありかたを明らかにすることである。「いわての復興教育」は、東日本大震災の教訓を伝えるだけでなく、地域を理解し、愛し、誇りを育むことを目的としている。本研究は、「いわての復興教育」を主に実践する小・中学校での調査を通して、その活動内容や教師等によるその解釈を明らかにし、愛郷心育成の意義を考察する。また、その実践のありかたを、他地域の学校教員等に伝える交流活動を行う。		
合 計	5 件	4 0 0 万円

2. 青少年の健全育成に寄与する市民活動支援【助成（応募型）】（広島県・山口県）

本財団の設立趣旨である「青少年の健全育成」を目的とした、民間の非営利活動を対象とする。

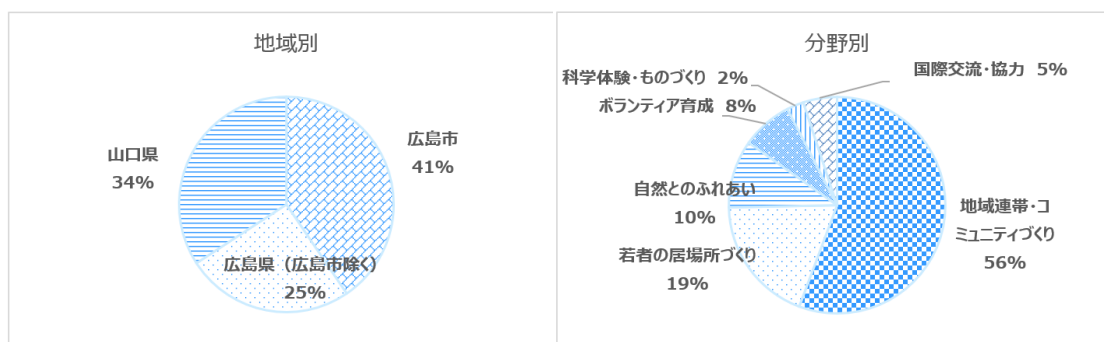
（1）募集・応募・選出状況

①募集内容

- (a) 対象分野：①ボランティア育成 ②若者の居場所づくり ③地域連帯・コミュニティづくり
④自然とのふれあい ⑤国際交流・協力 ⑥科学体験・ものづくり
- (b) 支援金総額・件数 800万円・30件程度
- (c) 1件当たり支援金額 10万円～50万円
- (d) 支援期間 単年度支援 2025年4月1日～2026年3月31日の1年間
- (e) 募集方法・募集期間 公募、2024年10月14日～2025年1月15日

②応募状況（地域別・分野別）

本年度は、79件の応募を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。



③選出方法

青少年健全育成関係選考委員会（2月）において、慎重に審議された結果、支援候補として26件が選出され、第63回理事会において正式に承認決定されました（広島県内：19団体、山口県内：7団体）。

（2）贈呈式

広島県と山口県の2会場において、それぞれ4月18日と4月23日に贈呈式を開催し、贈呈書の贈呈を行いました。

（3）フォローアップ

①活動見学

10団体を訪問しました。

②オンライン交流会

今年度は6月～7月に6回に分けて、少人数単位でのオンライン交流会を行い、25団体46名の皆様にご参加いただきました。

③マツダ財団市民活動セミナー・サロン（オンライン）

2022年度より実施しているオンラインセミナーを3月12日「知的障害や発達障害がある青少年への支援—様々な先端技術の活用可能性—」をテーマに開催しました（講師：近畿大学九州短期大学 講師 立石力斗様）。今年度支援団体に限らず一般参加者を含め、今回のテーマに関心がある20名が集い、VRを活用した支援の方法を知るとともに、いろいろな場面における活用の可能性について考えました。当セミナーは、市民団体の活動支援となる知識を得るための講習会として専門家を招き実施しています。

④成果報告会（研究助成、「若者×ツナグバ」参加団体合同開催）

今年度は25団体が終了され、2026年2月11日に、研究助成や「若者×ツナグバ」参加団体と合同で成果報告会を開催しました。

(4) 第41回(2025年度) マツダ市民活動支援一覧ー青少年健全育成関係ー

活 動 名	団 体 名	地域	金額 (万円)
学校や社会に適応できにくい人々が地域・社会・自然の中で成長できる居場所づくり	NPO法人ガハハ塾	広島市中区	39.6
若者が子どもたちを指導しながら自らも学ぶ「システム×デザイン思考」集中ワークショップ	Limon á tta(リモナッタ)	広島市中区	30
ひろしま親子自然探究教室	こども自然みらい学びの場	広島市東区	35.2
たいけん、はっけん、応援するけんー子供たちの可能性を引き出すー	一般社団法人Love & Hopeコミュニティ	広島市東区	30
キッズダムひろしま2025	キッズダムひろしま	広島市東区	30
体験しよう!楽しもう!繋がろう!似島わくわく交流	似島スポーツクラブ	広島市南区	14
into「江田島サードプレイス(仮称)」設立計画	into	広島市南区	32.1
ヒロシマ絵おと芝居公演事業	一般社団法人まち物語制作委員会	広島市西区	40
アートを媒介に地域を活性化させるアートプロジェクト	よこげい実行委員会	広島市西区	30
おきらく劇場ヒロシマ2025ー地域で多様性のある場づくりをする人材育成事業ー	一般社団法人舞台芸術制作室無色透明	広島市西区	29.4
病気や障がい・特性がある子もない子も体験格差をなくす!活動	ぽこぽこトレイン	広島市安佐南区	36
地域で育む未来のエンジニア育成活動	STEAMラボ広島	広島市安佐南区	30.8
未来を守るドローンの視点:片添ヶ浜海浜公園のプラスチックゴミ対策と自然環境保全	鳥瞰図	広島市安佐南区	29.4
発達凸凹や不登校の子ども達の行き場所づくり~自立に向けたステップ事業~	特定非営利活動法人らぼーる	呉市	15
大学生の空き家改修による地域コミュニティ拠点づくり	空き家リノベーションサークル D I Y A H	呉市	30
困る前から若者に寄り添う居場所を福山に!	特定非営利活動法人どおりいむスイッチ	福山市	27.3
和げん「新月マルシェ」&お出かけマルシェ	口和「新月マルシェ」の会	庄原市	22.4
Ready for Future~県内若者災害ボランティア育成プロジェクト~	特定非営利活動法人 I M A G I N U S	東広島市	30.4
誰もが人生の可能性を広げることのできる「ひろがるアカデミー」の開設	一般社団法人 S D G s × 総探共育アカデミア	東広島市	32.5
不登校や生きづらさを感じている児童生徒のための「森と海の学校」	NPO法人 森と海の学校	宇部市	40
「きもので成人のお祝いをしよう!」	セレーノ四つ葉(肢体不自由・障がい児者/親と仲間の集う会)	宇部市	13
山口市在住の高校生を対象とした地域課題を解決するための実践プロジェクト	山口トップランナープロジェクト(YTP)	山口市	40
第1回 みんなねフォーラム	みんなの種~Seeds for All~	山口市	27.5
子どもたちが主体的に運営する『防災キャンプ』プロジェクト	防府市防災士等連絡協議会	防府市	50
第8回・9回「ふくろう公園インクルーシブDAY」及び第2回「米海兵隊岩国航空基地インクルーシブデー」	遊びと育ちのインクルーシブ架け橋会	岩国市	35
里山に多様な人々が集う全く新しいコミュニティの場に挑戦	鹿野の風プロジェクト	周南市	30
合 計	26件	800万円	広島県 20件 564.5万円 山口県 7件 235.5万円

3. 青少年の健全育成に関する講座等の事業実施【講座、セミナー、育成】

i. 感動塾・みちくさ（広島県）

「感動塾・みちくさ」は、子どもたちが身近な生活の中にあるものを題材として、仲間づくりを行い、協力・創意工夫することにより、未知なる物への興味を喚起し感動する心を育むこと、合わせて科学や技術への興味、関心を高めることを目的とした事業であり、1998年度から実施しています。

(1) 連携先

（公財）広島市文化財団との共催。

(2) 募集方法

公募（応募多数の場合は抽選）

(3) 開催場所・開催日等

① 広島市青少年野外活動センター

・2025年8月1日～8月3日 2泊3日

・参加者：小学3～4年生 参加28名（応募総数207名）

「水」をテーマに実験や観察、工作、施設見学等を通して、自然に親しみ、科学的な見方や考え方を養う。

プログラム①「野活の水」

②「雲を作る実験」

③「水生生物の観察」 ④「仲間作りゲーム」

⑤「大暮養魚場での体験」 ⑥「温井ダム見学」 ⑦「キャンプファイア」

⑧「竹水鉄砲作り」 ⑨「水リンピック（班対抗のクイズや実験）」

② 広島市三滝少年自然の家

・2025年8月20日～8月22日 2泊3日

・参加者：小学4～6年生 参加31名（応募総数243名）

「『水』のふしぎ発見！感動体験」をテーマに、水に関わる実験や工作、生き物観察等を通して水の不思議について学ぶ。

プログラム①「水のふしぎにせまろう」 ②「水であそぼう①・夏の星空観察」

③「水であそぼう②」 ④「水と生き物のかかわりをさぐろう」

⑤「キャンプファイア」 ⑥「水をつかおう」

(4) マツダ財団支援額

100万円

ii. 若者×ツナグバ（広島県・山口県）

「若者×ツナグバ」は、高齢化社会や格差社会が進む状況下で、青少年の最終ステージともいうべき「社会人になる直前の若者」「社会に出て間がない若者」が、今の社会に希望を持ち、自立していくことを支援することを目的として、若者が地域社会のために行う非営利の活動を支援します。

(1) 募集内容

- ①対象地域：広島県・山口県
- ②対象団体：若者自身が企画し、社会貢献を行う団体。若者が5名以上の団体で、代表者も若者であること。
若者の定義は、2025年4月1日時点で満18歳以上30歳未満の人。
- ③支援期間：単年度支援 2025年4月1日～2026年3月31日の1年間
- ④支援金総額：90万円（5団体）
- ⑤募集期間：2024年10月14日～2025年1月15日

(2) 審査

- ・書面審査とプレゼン審査を行い、当事業の趣旨に合致した5団体を選出決定しました。

(3) 支援団体（社会人中心：1団体、大学生・大学院生中心：4団体）

- ① 7 hours club 広島市 「ヘルスケア活動を行う若年層のコミュニティ形成・農業支援」
- ② koko ilo（ココイロ） 広島市安芸区 「ユースクリニック ～サードプレイス×学びの場～」
- ③ 結～YUI～ 東広島市 「2025年度結～YUI～日本語教室イベント」
- ④ まちもゆ 山県郡北広島町 「WASA banquet（わさばんけつ）野外音楽ライブ」
- ⑤ 上島未来共創隊 豊田郡大崎上島町 「上島共創ワークショップ」

(4) フォローアップ

①合わせ交流会と定期交流会（オンライン）

4月14日に、新メンバーと事務局による顔合わせ交流会を実施し、その後、イベント開催月を除き定期交流会を実施し、活動状況の共有や意見交換を行いました（6/25, 12/17）。毎回、各団体2～3名程度参加。

②第4回若ツナフェスタ（対面）

11月30日に広島県豊田郡大崎上島に、4団体23名が集結して、地元の人も含めイベントを開催しました。午前中のIターンで大崎上島に来られた農家さんとの交流では、日々の仕事や島暮らしなどの話をお聞きした他、地域の課題（少子高齢化、人口減少、農業後継者問題）や移住の経験談等も伺い知ることができました。

午後からは、4団体による交流会を実施し、アドバイザーを交えて、自分達が課題に思っていること（団体の運営や継続、今後の進路のこと等）の真剣な話から他愛のない話まで、ざっくばらんに意見交換し、交流を深めました。

③第4回若ツナサミット（オンライン）

1月27日に今年度の各団体の成果報告会を兼ねた若者の意見交換会を実施しました。今回は今年度支援団体5団体7名に加えアドバイザーや若者を含む市民団体の皆さまや一般参加者にマツダ財団を加えた総勢27名が集いました。意見交換会では、「自身の興味関心を社会貢献へ繋げるためには？」「持続可能な組織運営のために、チームワークを高める方法は？」をテーマに活発な議論が行われました。

④成果報告（対面）

2月11日に市民団体や研究者との交流を目的に、研究助成と市民活動支援合同の成果報告会を開催しました。各団体から1～2名が参加し成果報告やポスターセッションを行いました。

iii. こどもミライクエスト（広島県）

「こどもミライクエスト」は、社会的養護が必要な子どもたちに、いつもと違う学習機会、非日常の楽しみを提供し、自身の好きなこと、得意なこと、将来の夢、やりたいことなどに気づく一助としてもらうことを目的とした事業です。参加した子どもたちが、理科実験、プログラミング、自然教室などの体験活動を楽しみ、興味を持ったことへの挑戦意欲を高め、仲間づくりや社会とのつながりを学んでいけるよう、さまざまな団体、個人と連携・支援しています。

(1) 連携先

共催	特定非営利活動法人ほしはら山のがっこう
協力・支援	広島市児童福祉施設連盟、広島市社会福祉協議会、助成事業でつながりがある市民活動団体、教育者、研究者

(2) 対象・人数： 広島市内の児童養護施設、母子生活支援施設で暮らす小学生・16名

(3) 開催日・開催場所

① 開催日：	2025年7月21日(月) — 23日(水) 2泊3日
② 開催場所：	ほしはら山のがっこう (三次市上田町の廃校となった木造校舎「三次市立上田小学校」を一部改装した体験交流宿泊施設です)

(4) 支援金 89万円

4. 講演会【講座、セミナー、育成】（広島県）

若者の未来を拓くことを目的とする講演会を開催しています。

(1) 第42回講演会

本年度は講師に元陸上競技選手の為末 大氏を迎え、「挑戦と成長の哲学」と題して開催しました。

講演会当日は多くの方にご来場いただきました。今年度は前年度に続き「若い方にも来場いただきたい」と学校などに出向いてご紹介をし、為末氏の母校の陸上部からも多くの学生が参加されました。為末氏の経験を踏まえた分かりやすくも深い内容の講演に聴衆も大変満足され、満足度は99%と、盛会のうちに終了することができました。

- ① 講 師： 為末 大 氏（Deportare Partners 代表、元陸上競技選手）
- ② 演 題： 挑戦と成長の哲学
- ③ 開催日時： 2025年10月18日（土）
- ④ 開催場所： 広島国際会議場 フェニックスホール
- ⑤ 募集方法： 公募（先着順）
- ⑥ 聴講者数： 580名

5. 大学寄付講義【講座、セミナー、育成】（広島県）

社会人、企業人として必要な視点・能力を醸成すべく、広島市近郊の大学に対する寄付講義を実施しています。

2000年度から一般社団法人教育ネットワーク中国のお力添えで、2年ごとに開講大学を替えながら「単位互換科目」として広く県内の大学生に受講していただいています。

（1）「ディベート演習」

社会人として活躍するために必要な一連のスキル（情報収集、分析、体系的にまとめて論じ相手から理解される）を身につけられるディベートを、自ら体験し醸成することを目的としています。

①授業科目名「ディベート演習」

日時：2025年5月13日(火)～7月1（火）（全8回）

場所：広島女学院大学

講師：マツダ財団1名

Ⅲ. 管理事項の概要

1. 役員等に関する事項

(1) 2026年3月31日現在の役員・評議員の名簿

財団役職		常/非常勤	名 前	役 職
理事長	代表理事	非常勤	菖蒲田 清孝	マツダ株式会社代表取締役会長
専務理事	代表理事	非常勤	吉 原 誠	マツダ株式会社専務執行役員
常務理事	業務執行理事	常 勤	大 塚 宏 明	公益財団法人マツダ財団事務局長
理 事		非常勤	植 竹 良 子	公益財団法人広島市文化財団常務理事
理 事		非常勤	上 田 宗 岡	上田宗箇流家元
理 事		非常勤	大 下 浄 治	広島大学大学院先進理工系科学研究科教授
理 事		非常勤	岡 畠 鉄 也	株式会社中国新聞社代表取締役社長
理 事		非常勤	平 谷 優 子	弁護士
理 事		非常勤	山根 八洲男	広島大学名誉教授

(五十音順・敬称略)

監 事		非常勤	景 山 伸 彦	マツダ株式会社財務本部本部長
監 事		非常勤	高 橋 義 則	公認会計士

(五十音順・敬称略)

財団役職		常/非常勤	名 前	役 職
評 議 員		非常勤	安 藤 周 治	特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター相談役
評 議 員		非常勤	越 智 光 夫	広島大学学長
評 議 員		非常勤	金 井 誠 太	マツダ株式会社相談役
評 議 員		非常勤	信 夫 秀 紀	広島県環境県民局長
評 議 員		非常勤	高 田 輝 和	公益財団法人中国電力技術研究財団専務理事
評 議 員		非常勤	長尾 ひろみ	瀬戸内グローバルアカデミー代表
評 議 員		非常勤	森 永 力	県立広島大学学長
評 議 員		非常勤	矢 吹 彰 広	広島大学工学部長
評 議 員		非常勤	山 川 肖 美	広島修道大学人文学部長
評 議 員		非常勤	山 田 陽 一	山口大学工学部長、大学院創成科学研究科長
評 議 員		非常勤	山 本 寿 英	マツダ株式会社技術研究所所長
評 議 員		非常勤	吉 田 総 仁	広島大学名誉教授
評 議 員		非常勤	渡 辺 一 秀	マツダ株式会社名誉相談役

(五十音順・敬称略)

(2) 役員等の異動状況

- ・高見明秀氏は2025年6月20日に評議員を退任し、山本英寿氏が2025年6月21日より評議員に就任

2. 職員に関する事項

役職名	名 前	主たる担当職務
事務局 長 事務局 長代理	大 塚 宏 明 常 友 敦	・事務局統括 ・主として、科学技術振興関係の助成等の事業計画の策定及びその実施に関する事項
事務局 長代理	佐々木 寛滋	・財団の普及・啓発に関する事業計画の策定及びその実施に関する事項 ・事業計画・財務・会計に関する事項
事務局 長代理	本 郷 佳 加	・主として、科学技術振興関係の助成等の事業計画の策定及びその実施に関する事項 ・大学講義開講に関する事項 ・事業計画・財務・会計に関する事項
事務局 員	竹 岡 美 樹	・主として、青少年健全育成関係の助成等の事業計画の策定及びその実施に関する事項 ・理事会、評議員会等の運営に関する事項 ・広報等に関する事項

3. 理事会・評議員会等、主な活動事項

(理事会)

会 議 名	開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
第64回理事会	2025年6月3日	第1号議案 2024年度事業報告及び決算承認の件 第2号議案 理事候補9名推薦の件 第3号議案 監事候補2名推薦の件 第4号議案 選考委員1名選出の件 第5号議案 第24回評議員会招集に関する件 [報告事項] 1) 2025年度科学技術振興関係事業助成の件 2) 職務執行の状況 3) 2023年度決算報告書の訂正について	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決
第65回理事会	2025年6月20日	第1号議案 代表理事選定の件 第2号議案 理事長及び専務理事選定の件 第3号議案 業務執行理事及び常務理事選定の件 [報告事項] 1) 公益法人の事業報告書等の提出書類	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決
第66回理事会 (決議の省略)	2025年9月24日	第1号議案 第41回(2025年度)科学技術振興及び 青少年健全育成研究助成対象決定の件 第2号議案 第42回(2026年度)青少年健全育成 市民活動支援計画決定の件 第3号議案 選考委員会運営規程一部変更の件	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決
第67回理事会	2026年3月13日	第1号議案 2026年度事業計画及び収支予算承認の件 第2号議案 第42回(2026年度)市民活動支援対象 (青少年健全育成関係)承認の件 [報告事項] 1) 財団運営要領・基準・取り決めの改定 2) 職務執行の状況	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決

(評議員会)

会 議 名	開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
第24回評議員会	2025年6月20日	第1号議案 2024年度決算承認の件 第2号議案 理事9名選任の件 第3号議案 監事2名専任の件 第4号議案 評議員1名選任の件 第5号議案 評議員会運営規程一部変更の件 [報告事項] 1) 2024年度事業報告の件 2) 2025年度事業計画及び収支予算の件	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決

(当年度の主な活動 ー上記会議以外)

活 動 項 目	実施年月日	概 要
第40回科学技術振興関係マツダ事業助成の募集	2025年4月～5月	中国5県が対象
第41回マツダ研究助成(科学技術)の募集	2025年4月～5月	全国の研究者対象
第41回マツダ研究助成(青少年)の募集	2025年4月～6月	全国の研究者対象
第41回青少年健全育成市民活動支援贈呈式	2025年4月	4月18日広島、4月23日防府実開催
大学寄付講義(広島女学院大学)	2024年5月～7月	ディベート演習
2025年度選考委員会(科学技術振興関係)	2025年7月25日	第41回マツダ研究助成候補の審議・選出
2025年度選考委員会(青少年健全育成関係)	2025年8月22日	第41回マツダ研究助成候補の審議・選出
第42回講演会	2025年10月18日	講師：為末大氏、演題：「挑戦と成長の哲学」
感動塾・みちくさ	2025年8月	(公財)広島市文化財団と共催
先進サイエンスサロン	2024年11月2日	科学技術振興関係市民参加型公開講座
第4回若ツナフェスタ 開催	2025年11月30日	若者×ツナグバ4団体が集結
第41回マツダ研究助成贈呈書の贈呈	2025年10月～12月	科学技術振興関係／青少年健全育成関係
第42回青少年健全育成市民活動支援募集	2025年10月～2026年1月	広島県、山口県対象
科学へのいざない(広島女学院中学高等学校)	2026年1月27日	研究助成の採択研究者による講義
第5回若ツナサミット開催(オンライン)	2026年1月27日	成果報告会および若者の意見交換会
2025年度成果報告会	2026年2月11日	青少年関係研究者と市民団体の集い
2026年度選考委員会(青少年健全育成関係)	2025年2月12日	第42回市民活動支援候補の審議・選出

4. 所管行政庁への申請・届出・提出に関する事項

宛 先	申請等年月日	申 請 事 項 等
内閣総理大臣（内閣府大臣官房公益法人行政担当室）	2025年6月24日	事業報告等の提出
内閣総理大臣（内閣府大臣官房公益法人行政担当室）	2025年8月21日	理事変更の届出
内閣総理大臣（内閣府大臣官房公益法人行政担当室）	2026年2月6日	理事変更の届出
内閣総理大臣（内閣府大臣官房公益法人行政担当室）	2026年3月20日	事業計画書等の提出

5. 登記に関する事項

登 記 先	登記年月日	登 記 事 項
広島法務局	2025年6月24日	高見明秀氏 評議員を退任
	2025年6月24日	山本英寿氏 評議員に就任
	2025年6月24日	評議員の変更、定款変更登記

6. 附属明細書

2025年度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項にて規定される「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、附属明細書は作成しない。